

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

151号



公益財団法人 長崎平和推進協会
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 「ながさき平和の日」、長崎平和宣言
- 長崎平和推進協会 4 部会紹介
- 「黒こげの少年」に寄せて
- 市民のつどい、長崎国際平和映画フォーラム 2016 のお知らせ
- TOPICS! (北朝鮮の核実験に抗議 ほか)



被爆 71 年ナガサキ原爆写真展 (2016 年 8 月 9 日 追悼平和祈念館交流ラウンジ)

被爆71周年



初めて追悼空間（追悼平和祈念館）にて被爆体験記の朗読を行った「永遠の会」

長崎平和宣言

核兵器は人間を壊す残酷な兵器です。

1945年8月9日午前11時2分、

米軍機が投下した一発の原子爆弾が、上空でさく裂し

た瞬間、長崎の街に猛烈な爆風と熱線が襲いかかりました。

あとには、黒焦げの亡骸、全身が焼けただれた人、内臓が飛び出した人、無数のガラス片が体に刺さり苦しむ人があふれ、長崎は地獄と化しました。

原爆から放たれた放射線は人々の体を貫き、そのために引き起こされる病気や障害は、辛うじて生き残った人々を今も苦しめています。

核兵器は人間を壊し続ける残酷な兵器なのです。

今年5月、アメリカの現職大統領として初めて、オバマ大統領が被爆地・広島を訪問しました。大統領は、その行動によって、自分の目と、耳と、心で感じることの大切さを世界に示しました。

核兵器保有国をはじめとする各国のリーダーの皆さん、そして世界中の皆さん。長崎や広島に来てください。原子雲の下で人間に何が起きたのかを知ってください。事実を知ること、それこそが核兵器のない未来を考えるスタートラインです。

今年、ジュネーブの国連欧州本部で、核軍縮交渉を前進させる法的な枠組みについて話し合う会議が開かれています。法的な議論を行う場ができたことは、大きな前進です。しかし、まもなく結果がまとめられるこの会議に、核兵器保有国は出席していません。そして、会議の中では、核兵器の抑止力に依存する国々と、核兵器禁止の交渉開始を主張する国々との対立が続いています。このままでは、核兵器廃絶への道筋を示すことができません。会議が閉会してしまいます。

核兵器保有国のリーダーの皆さん、今からでも遅くはありません。この会議に出席し、議論に参加してください。

国連、各国政府及び国会、NGOを含む市民社会に訴えます。核兵器廃絶に向けて、法的な議論を行う場を決して絶やしてはなりません。今年秋の国連総会で、核兵器のない世界の実現に向けた法的な枠組みに関する協議と交渉の場を設けてください。そして、人類社会の一員として、解決策を見出す努力を続けてください。

核兵器保有国では、より高性能の核兵器に置き換える計画が進行中です。このままでは核兵器のない世界の実現がさらに遠のいてしまいます。

今こそ、人類の未来を壊さないために、持てる限りの「英知」を結集してください。

日本政府は、核兵器廃絶を訴えながらも、一方では核抑止力に依存する立場をとっています。この矛盾を超える方法として、非核三原則の法制化とともに、核抑止力に頼らない安全保障の枠組みである「北東アジア非核兵器地帯」の創設を検討してください。核兵器の非人道性をよく知る唯一





5



3



1



4



2

①平和祈念式典の様子 ②ピースバトン・ナガサキによる紙芝居(原爆資料館いこいの広場)
③平和の灯コンサート(平和公園)
④被爆71年ナガサキ原爆写真展(追悼平和祈念館交流ラウンジ)
⑤8月9日原爆落下中心碑

の戦争被爆国として、非核兵器地帯という人類のひとつの「英知」を行動に移すリーダーシップを発揮してください。

核兵器の歴史は、不信感の歴史です。

国同士の不信の中で、より威力のある、より遠くに飛ぶ核兵器が開発されてきました。世界には未だに1万5千発以上の核兵器が存在し、戦争、事故、テロなどにより、使われる危険が続いています。

この流れを断ち切り、不信のサイクルを信頼のサイクルに転換するために行えることのひとつは、粘り強く信頼を生み続けることです。

我が国は日本国憲法の平和の理念に基づき、人道支援など、世界に貢献することで信頼を広げようと努力してきました。ふたたび戦争をしないために、平和国家としての道をこれからも歩み続けなければなりません。

市民社会の一員である私たち一人ひとりにも、できることがあります。国を越えて人と交わることで、言葉や文化、考え方の違いを理解し合い、身近に信頼を生み出すことです。オバマ大統領を温かく迎えた広島市民の姿もそれを表しています。市民社会の行動は、一つひとつは小さく見えても、国同士の信頼関係を築くための、強くかけがえのない礎となります。

被爆から71年がたち、被爆者の平均年齢は80歳を越えました。世界が「被爆者のいない時代」を迎える日が少しずつ近づいています。戦争、そして戦争が生んだ被爆の体験をどう受け継いでいくかが、今、問われています。

若い世代の皆さん、あなたたちが当たり前と感じる日常、例えば、お母さんの優しい手、お父さんの温かいまなざし、友だちとの会話、好きな人の笑顔……。そのすべてを奪い去ってしまうのが戦争です。

戦争体験、被爆者の体験に、ぜひ一度耳を傾けてみてください。つらい経験を語ることは苦しいことです。それでも語ってくれるのは、未来の人たちを守りたいからだということを知ってください。

長崎では、被爆者に代わって子どもや孫の世代が体験を語り伝える活動が始まっています。焼け残った城山小学校の校舎などを国の史跡として後世に残す活動も進んでいます。

若い世代の皆さん、未来のために、過去に向き合う一歩を踏み出してみませんか。

福島での原発事故から5年が経過しました。長崎は、放射能による苦しみを体験したまちとして、福島を応援し続けます。

日本政府には、今なお原爆の後遺症に苦しむ被爆者のさらなる援護の充実とともに、被爆地域の拡大をはじめとする被爆体験者の一日も早い救済を強く求めます。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は、世界の人々とともに、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くすことをここに宣言します。

2016年(平成28年)8月9日

長崎市長 田上 富久



子ども達に被爆体験を語る継承部会員



すえながひろし

末永浩部会長

第8代目部会長

9歳の時に被爆。発足して間もない昭和58年9月に継承部会に入会し、平成25年から部会長を務める。現在、日本国内の他、世界各地でも被爆体験講話を語り続けている。

新しい継承部会員を募集しています。被爆者で自らの体験を語ってみたいと思う方は平和推進協会へご連絡ください。

継承部会

— 44人 —

継承部会では、主に修学旅行生や市内の小中学生等に自らの被爆体験を語り、原爆の悲惨さと平和の大切さを伝える活動を行っている。発足当初は、被爆体験を語ろうという人は少なく、部会員はわずか17人。しかし、被爆体験講話の申込みは毎年増加し、部会員だけでは対応できず、一般の方が被爆者から体験を聞き取って講話を行うこともあったという。初代部会長は内田伯さん。今も継承部会員として活躍されている。二代目の故・今田斐男さんは昭和59年から16年間部会長を務めた。

現在、市内の全小中学校では、平和教育の一環として毎年被爆体験講話を聴いており、部会員が手分けして学校へ出向いている。また、招かれて県外・海外でも講話を行うなど、活発に活動が続いているが平均年齢が80歳を超え、今までと同じような活動は難しくなってきた。

平成25年から、原爆投下時1歳から4歳位までの若年被爆者も入会しているが、「被爆体験の継承」は今後の課題であり、部会では継承問題を考える班を設けて、平和活動をされている方々との交流を行っている。また、長崎市の取り組みである「家族・交流証言」にも参加するなど、今出来ることを始めている。

国際交流部会

— 27人 —



「市民のつどい」折り鶴コーナー

語学力がなくても興味のある方はどなたでも入会していただけます！一緒に活動してみませんか？
毎月第3金曜日に行っている「国際交流の夕べ」にも遊びにきてください。



よしだむつこ

吉田睦子部会長

第4代目部会長。発足当初からのメンバーであり、平成10年から部会長を務める。当協会の平和案内人第2期生でもあり、英語でのガイドも行う。「証言 長崎が消えた」の英語版「Voice of the A-Bomb Survivors NAGASAKI」の編集、翻訳にも参加している。

国際交流部会は外国人との交流を通じ、国際平和の実現を目指し活動を行っている。

発足当初は、国際文化会館（原爆資料館の前身）を訪れた外国人の案内や資料の翻訳等を行っており、外国人の部会員も所属していたという。また、外国人講師を招いて部会員のスキルアップにも力を入れていた。初代部会長は深牧邦彦さん。

現在は、毎月「国際交流の夕べ」を開催し、長崎在住の外国人を講師に招いて、その国の政治・社会・文化や長崎での取り組みを紹介している。また、毎年春にはポットラックパーティーで新しく長崎にいられた外国人に出会いの場を設け、秋には「外国人と市民のつどい」を開催して、意見交換を行いながら国際交流を広げている。

10月の「市民のつどい」では、訪れた人と一緒に折り鶴を折り、核兵器の廃絶を訴えるため、平和の願いを込めた千羽鶴を8年間アメリカ大統領に送り続けている。

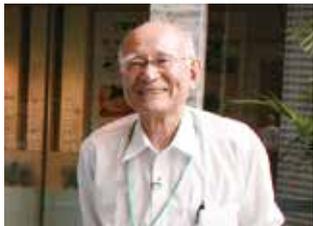
また、被爆70年の昨年からは、松が枝埠頭に折り鶴コーナーを設け、クルーズ船で訪れる外国人観光客と一緒に折り鶴を折りながら、平和への想いを長崎から世界に広げている。

写真資料調査部会

— 9人 —



被爆71年ナガサキ原爆写真展



若い部会員も加わり、活発に活動しています。被爆前後の写真をお持ちの方はぜひ情報をお寄せください。

ふかほりよしとし 深堀好敏部会長

第2代目部会長

発足当初からのメンバーであり、平成14年から部会長を務める。16歳の時に被爆。平成24年～27年には長崎市から依頼を受け、米国国立公文書館で被爆写真の収集を行った。

昭和54年8月、被爆者6人が集まり、写真資料調査部会の前身「長崎の被爆写真調査会」が発足。昭和58年、長崎平和推進協会の「写真部会」として活動を開始した。初代部会長は故・荒木正人さん。
発足直後、原爆映画を制作した岩倉務氏から米国戦略爆撃調査団の長崎原爆の写真六百枚の調査依頼を受け、手さぐりで調査したという。その後、朝日新聞の報道カメラマン・松本栄一氏が撮影した三百枚の写真の調査を依頼された。調査後、お二人の「次の世代に残してほしい」というお気持ちから貴重な写真は部会に寄贈された。
平成9年、現在の「写真資料調査部会」に名称を変更。発足時の会員は深堀部会長のみとなったが、現在9人の部会員が毎週月曜日に集まり、原爆写真の調査、整理を行い、毎年原爆写真展を開催している。また、今年度から所蔵写真のキャプション（説明文）を見直しつつ、誰でも写真が検索できるようにデータベース化の作業を開始した。

音楽部会

— 11人 —



「市民のつどい」ミニコンサート

「うたごえは平和の力」
「うたごえは生きる力」を
スローガンに活動を続けてい
ます。



おがさはらかずひろ 小笠原一弘部会長

第2代目部会長

平成12年から部会長を務める。当協会の平和案内人第1期生でもあり、11年間ボランティアガイドを続けている。21年間団長を務めている「平和の旅へ」合唱団はこれまでに240回、14万3千人に平和の想いを届けた。また、合唱団「ながせん」でも活躍中。

音楽部会は、音楽の演奏をとおして平和の尊さや核兵器廃絶を訴え続けている。初代部会長は山内隆司さん。昭和62年から平成元年までは、国連軍縮週間にロックを通じて若者に平和を訴えようと、地元ミュージシャンによるロックコンサートも開催していたという。
音楽部会が主要メンバーとなつて原爆資料館ホール等で開催している「長崎平和音楽祭」は今年の夏で31回目を数えた。
今年是被爆者で故・山口仙二さんの半生を描いた「魂の軌跡・ノーマア・ヒバクシャ」を語りと合唱で構成して演奏し、平和の尊さを聴衆とともに広く発信した。
毎年秋には、「市民のつどい」でミニコンサートを行い、訪れた方々に歌詞を配り、子ども達もよく知っている「青い空は」や「折り鶴」など平和の歌と一緒に歌いながら、音楽をとおして平和について改めて考えてもらうきっかけを作っている。

山端庸介氏撮影
「黒こげの少年」
に寄せて



写真提供・山端祥吾氏



昨年開催した「被爆70年
ナガサキ原爆写真展」の様子



鑑定に使用された
谷崎昭治さんの家族写真



谷崎昭治さんの二人の妹

昨年7月、写真資料調査部会は、長崎市立図書館で「被爆70年ナガサキ原爆写真展」を開催した。大勢の来場者が訪れる中、ある姉妹が、1枚の写真を見て「あつ！これはお兄ちゃんだ！」と声を上げた。声を上げたのは「黒こげの少年」の写真の前。姉妹の兄は谷崎昭治さん（当時13歳）といい、70年前の原爆投下後から行方不明とのことである。姉妹は別れを惜しむように写真を撫でながら会場を去ったという。

9月、姉妹が写真資料調査部会を訪れ、私に、写真展で見た亡き兄と思われる「黒こげの少年」の写真の複製を求めた。姉妹は、戦時中に撮った兄・昭治さんの家族写真を持参しており、昭治さんと幼い頃の姉妹、母の姿があった。「黒こげの少年」は、西部軍の報道班員だった山端庸介氏（1917〜1966）が撮影したもの。後日、ネガを保管している山端氏の長男・祥吾氏から届いた写真の少年の顔は比較的明瞭で、姉妹は少年が兄だと確信したようだった。

長年、原爆写真の収集と検証に取り組んできた私は、姉妹に少年が兄・昭治さんなのか調べてみてはどうかと話し、日本法医学会理事長で九州大学大学院の池田典昭教授に写真の鑑定を依頼した。

また、私とは別にNBC長崎放送局が、山口県土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム名誉館長の松下孝幸氏に鑑定を依頼した。

その結果、池田教授は「同一人物の可能性がある」と鑑定し、松下氏は「同一人物の可能性は高く、同一人物であることを否定できない」との鑑定であった。

鑑定の次に大切なことは「少年」がいた場所である。山端氏が残した115枚の写真を分析すると、黒こげの焼死体は爆心直下のほか、松山町から浜口町にかけて数体あったことが確認できる。

昭治さんは当時、瓊浦中学校1年生で、8月9日は1時間目の英語の試験を受けた後、爆心地に近い岡町の下宿に帰宅途中に被爆したと推察される。

確証はできないが、学校から下宿までの距離や下校の時間から、少年が昭治さんである可能性は低いとは言えないだろう。

さらに姉妹が、「あつ！お兄ちゃんだ」と叫んだ、肉親の直感は無視出来ないと認識した。

「黒こげの少年」は、一枚の写真にすぎないが、原爆の非人道性、原爆は人類に何を及ぼしたのか？その答えを「写真」は代弁している。

戦後71年、叫び続ける被爆者の声は、いつも空に消えて核保有国には伝わらない。5か国だった核保有国は、いつの間にか9か国に増え、世界は滅亡に向かっていくように見える。「黒こげの少年」は、そのことを警告している。私にとって、写真は世界遺産なのである。

（公財）長崎平和推進協会
写真資料調査部会長 深堀好敏

主なイベント

戦時食コーナー

戦時中に食べられていたすいとんや野草の天ぷら等を実際に食べることができます

エコ風船コーナー

紙風船に平和へのメッセージや絵を描いて、空へ飛ばします

折り鶴コーナー

みんなで折り鶴を折り、千羽鶴を作ります

ミニコンサート

平和の曲を演奏します。一緒に歌いましょう！

原爆写真展

原爆被災の実相を伝える写真パネルを展示し、解説します

綿菓子・ポップコーンコーナー

毎年子ども達に大好評です

今年も、子どもから大人まで「平和」について改めて考えていただけるような体験型のイベントを行います。
4、5ページで紹介した4部会や市民の皆さまのご協力でさまざまなコーナーを設けています。

当協会では、10月24日～30日の国連軍縮週間に開催される市民大行進に合わせて毎年「市民のつどい」を開催しています。

10/29
SAT

10時～13時

入場無料

長崎原爆資料館
階段下広場



原爆写真展



綿菓子コーナー



エコ風船コーナー



戦時食コーナー



★プログラム等の詳細は
追悼平和祈念館 HP をご覧ください。

10
SAT

10時25分～18時30分

- ◆ ラウンジミニコンサート
- ◆ 写真展開幕・トークセッション
- 朗読劇「ナガサキを見つめる」
永遠の会+松崎謙二（無名塾）
- ◆ 祈念館館内ラリー
- 「ビルマの^{たてごと}竖琴（旧作版）」116分（1956年）
- 「父と暮せば」99分（2004年）

11
SUN

10時30分～17時00分

- ◆ 祈念館館内ラリー
- ◆ 祈念館長ツアー
- 朗読劇「その刻から、この先へ」
永遠の会+高校生（放送部）+松崎謙二（無名塾）
- 「戦場のピアニスト」150分（2002年）

12/10 SAT
～11 SUN

入場無料

- 長崎原爆資料館ホール
- ◆ 追悼平和祈念館
- 交流ラウンジ

今年で7回目を迎えます。今回は、映画だけでなく、ラウンジ・ミニコンサートや館長ツアー、館内ラリーなど、親子で楽しめるプログラムも充実しています。ぜひご来場ください！

ポーレ・サヴィアーノ写真展「FROM ABOVE」同時開催！



アメリカ・ニューヨーク生まれの写真家ポーレ・サヴィアーノ氏が、自身のプロジェクト「FROM ABOVE」で撮り続けた長崎の被爆者や東京大空襲、ドレスデン爆撃の生存者の写真（ポートレート）20数点を展示します。

会期：12月10日（土）11時15分～25日（日）17時30分

（12月10日11時15分～12時 サヴィアーノ氏によるトーク・セッション）

会場：追悼平和祈念館 交流ラウンジ

北朝鮮の核実験に抗議

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は、国際世論の警告にもかかわらず、9月9日午前と同国北東部で5回目の核実験を強行しました。

核兵器による惨禍を経験し、長年に渡り核兵器廃絶を訴えてきている当協会として、この暴挙へ厳重に抗議をするとともに核兵器開発の即刻中止を要求する趣旨の抗議文を、同国の金正恩（キムジョンウン）国務委員会委員長及び慈成男（チャソンナム）国連代表部大使あてに送付しました。

当協会は、これまでも核兵器の維持や開発に繋がる各種実験に対し、理事長名で抗議の意思を明らかにしています。

被爆体験記を語り継ぐ永遠の会 第2回定期朗読会 朗読劇 きのう、今日、そして…

—城山国民学校の記録— **入場無料**



城山国民学校の荒川秀男教頭先生が取材し残された記録をもとに、教職員の被爆時の状況を朗読劇で伝えます。

日時：10月16日（日）

14：00～15：00

場所：追悼平和祈念館
地下2階交流ラウンジ

【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055
<http://www.peace-nagasaki.go.jp/>

折り鶴再生紙商品販売開始！

平和の祈りを込めて原爆資料館と追悼平和祈念館に届けられた折り鶴から作った再生紙を使用した商品が完成しました。原爆資料館ミュージアムショップで販売しています。



原爆資料館限定！

メモ帳 250円
マグネット 300円
ハガキ 150円

【問合せ】書籍販売コーナー ☎ 095-842-0580

「会員の広場」にお便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆さまよりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆さまの声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。

✉ E-mail アドレス：info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8（公財）長崎平和推進協会「会員の広場」係

*投稿は、200字以内でお願いします。また、匿名の投稿は、ご遠慮ください。

世界の核弾頭の数（2016年6月1日現在）

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,300	~7,000	300	260	215	80	100~130	100~120	<10	~15,350

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

◎維持会員 1091人
◎賛助会員 143人
◎学生会員 12人
(平成28年9月13日現在)

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

◎木下 セツ (敬称略) 二万円
◎智多 正信 一万円
◎川原 竹一 二万円
◎匿名 二万四千円
◎匿名 二万円
◎匿名 三千五百円
◎匿名 三千元
◎匿名 二千元

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。
今年度まだ会費を納めていただけていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。
お支払いいただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。
詳しくは当協会ホームページをご覧ください。ご確認ください。事務局までご連絡ください。

